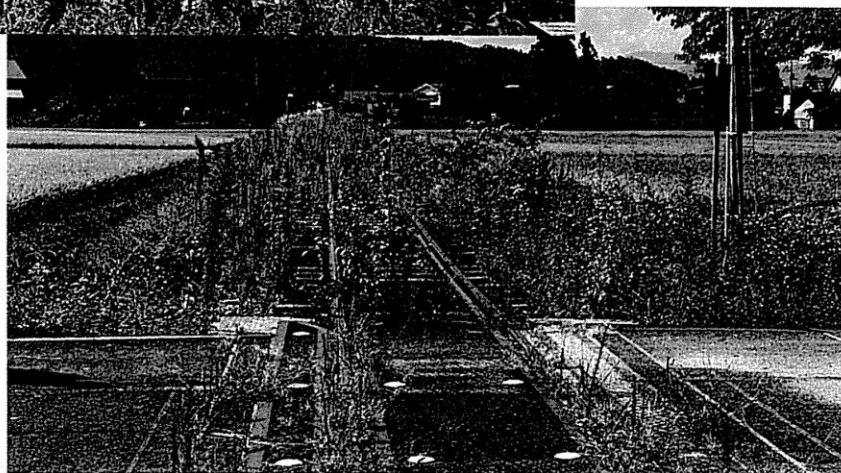


提 言 書



令和8年6月30日

米坂線等県内鉄道復旧整備実現議員連盟

米坂線の復旧検討の推進に関する提言

米坂線は、本県と新潟県を結ぶ横軸として全国的な鉄道ネットワークの一翼を担う重要な路線であり、沿線地域の通勤・通学をはじめとする日常生活を支えるとともに、観光振興や地域間交流の促進、さらには災害時における代替交通路としても重要な役割を果たしてきた、極めて重要な路線である。

しかしながら、令和4年8月の豪雨災害により甚大な被害を受けて以降、被災から間もなく4年を迎える現在においても、今泉駅～新潟県坂町駅までの区間において運休が続き、バスによる代行輸送が行われている。これまでにJR東日本、沿線自治体及び山形・新潟両県による「JR米坂線復旧検討会議」が7回開催され、復旧に向けた検討が行われてきたものの、いまだに方向性が決まっていない状況にある。

将来にわたり、利便性・持続可能性の高い地域公共交通を実現し、地域住民が安心して暮らし続けられる環境を取り戻すためには、米坂線の復旧の方策について試験的運行なども行いながら議論を加速させ、検討を次の段階へ進めることが不可欠である。

加えて、本年4月に取りまとめられた国土交通省の「鉄道事業者と地域の協働による地域モビリティの刷新に関する検討会（第2期）」の検討結果では、「地域の持続的なまちづくりに資する交通体系を議論するに当たっては、鉄道事業者の役割も重要である」とされるなど、鉄道事業者の果たす役割の重要性が指摘されたことを踏まえ、JR東日本に主体的な関与を求めていくことも必要である。

これまで当議員連盟では、全国の被災路線の復旧事例について調査・検討を進めてきたところであり、本年4月に視察したJR日田彦山線におけるBRT（バス高速輸送システム）による復旧の取組みは、被災路線の「再生」に向けた有効な選択肢の一つとして、大きな示唆を与えるものであった。特筆すべきは、BRTが単なる災害復旧にとどまらず、観光をはじめ地域産業の振興や、住民生活の利便性・安全性の向上を見据えた「未来に向けた投資」のメッセージとして位置づけられ、その実現に向けて地域振興基金が創設され、復旧後の沿線地域の振興に寄与している点にある。

こうした事例も参考にしつつ、沿線自治体と山形・新潟両県が一丸となり、JR東日本との協議を着実に前進させ、一日も早い復旧につなげていくよう、下記のとおり提言する。

記

- 1 米坂線の復旧検討に当たっては、住民の利便性向上や復旧後の地域振興も見据えながら議論を加速させるとともに、JR東日本が主体的に関わるよう強く働きかけること。
- 2 政府に対し、被災した鉄道の復旧に向けた財政支援の拡充を継続して求めていること。
- 3 今泉～坂町間のバス(BRT)転換を含めた復旧の方策について、試験的な運行なども行いながら、具体的な検討を進めること。併せて、今泉～米沢間の今後の運営の在り方についても検討を行うこと。

令和8年6月30日

山形県知事 吉村 美栄子 様

米坂線等県内鉄道復旧整備実現議員連盟

役 員

会 長	伊 藤 重 成
副 会 長	木 村 忠 三
幹 事 長	小 松 伸 也
理 事	舩 山 現 人
	吉 村 和 武
	五十嵐 智 洋
	青 木 彰 榮
	相 田 日出夫
事務局 長	相 田 光 照

奥 山 誠 治
洪 間 佳寿美
梶 原 宗 明
高 橋 淳